

## 週間火山概況（平成 21 年 1 月 9 日 ～ 平成 21 年 1 月 15 日）

### 【火山現象に関する警報及び予報の発表状況】

いずれの火山についても、噴火に関する予報警報事項に変更はない。

表 1 火山現象に関する警報及び予報の発表履歴（1 月 9 日～1 月 15 日）

| 発表日時         | 火山名 | 警報・予報  | 概要           |
|--------------|-----|--------|--------------|
| 毎日 07 時、17 時 | 三宅島 | 火山ガス予報 | 島内の火山ガスの分布状況 |

表 2 1 月 15 日現在の噴火警報及び噴火予報等の発表状況

| 警報・予報                  | 噴火警戒レベル<br>及びキーワード | 該当火山                                                                                   |
|------------------------|--------------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 火口周辺警報                 | レベル 3（入山規制）        | 口永良部島                                                                                  |
|                        | レベル 2（火口周辺規制）      | 雌阿寒岳、浅間山、三宅島、桜島、<br>薩摩硫黄島、諏訪之瀬島                                                        |
|                        | 火口周辺危険             | 硫黄島                                                                                    |
| 噴火警報及び火山現象<br>に関する海上警報 | 周辺海域警戒             | 福徳岡ノ場                                                                                  |
| 噴火予報                   | レベル 1（平常）          | 十勝岳、樽前山、有珠山、北海道駒ヶ岳、岩<br>手山、吾妻山、草津白根山、御嶽山、富士山、<br>伊豆大島、九重山、阿蘇山、雲仙岳、霧島山<br>（新燃岳）、霧島山（御鉢） |
|                        | 平常                 | 上記以外の活火山                                                                               |



図 1 噴火警報発表中の火山（1 月 15 日現在）

## 【噴火警報発表中の火山の活動状況及び警報事項】

### めあかんだけ 雌阿寒岳 [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

ポンマチネシリ火口の噴煙はやや多い状態が続き、火口縁上400～600mで推移した。

振幅の小さな火山性微動が時々発生し、火山性地震は消長を繰り返しながらやや多い状態で推移した。GPSによる地殻変動観測では特段の変化はなかった。

雌阿寒岳では今後ごく小さな噴火が発生する可能性があり、ポンマチネシリ火口から500m程度の範囲では大きな噴石<sup>1)</sup>に警戒が必要である。また、風下側では降灰及び小さな噴石<sup>1)</sup>に注意が必要である。

- 1) 噴石については、大きさによる風の影響の程度の違いによって飛散範囲が大きく異なる。本文中「大きな噴石」とは、「弾道を描いて飛散する大きな噴石」のことであり、「小さな噴石」とは、それより小さく「風の影響を受ける小さな噴石」のことである。

### あさまやま 浅間山 [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

山頂火口からの噴煙量はやや多い状態が続き、噴煙高度は火口縁上概ね200mで推移した。夜間には、2008年8月から高感度カメラ<sup>2)</sup>で確認できる程度の微弱な火映が時々観測されている。

火山性地震及び火山性微動はやや多い状態が続いている。

15日に行った現地調査では、二酸化硫黄放出量は一日あたり3,800～5,900トンと、前回(1月8日、1,700～3,100トン)と比べて多い状態となっている。

GPSによる地殻変動観測では、2008年7月初め頃から深部へのマグマ貫入を示すわずかな伸びの傾向がみられている。また、光波測距観測では、2008年9月頃から山頂と軽井沢測候所の間が縮む変化が観測されており、山頂部のごく浅いところの膨張によるものと推定される。

浅間山では、今後も山頂火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、山頂火口から概ね2kmの範囲では大きな噴石<sup>1)</sup>に警戒が必要である。また、風下側では降灰及び小さな噴石<sup>1)</sup>にも注意が必要である。なお、火山ガス放出量の多い状態が続いているので、風下側にあたる登山道等では火山ガスにも注意が必要である。

- 2) 長野県建設部佐久建設事務所の黒斑山設置カメラ、国土交通省利根川水系砂防事務所の山麓設置カメラ及び気象庁の追分カメラによる。

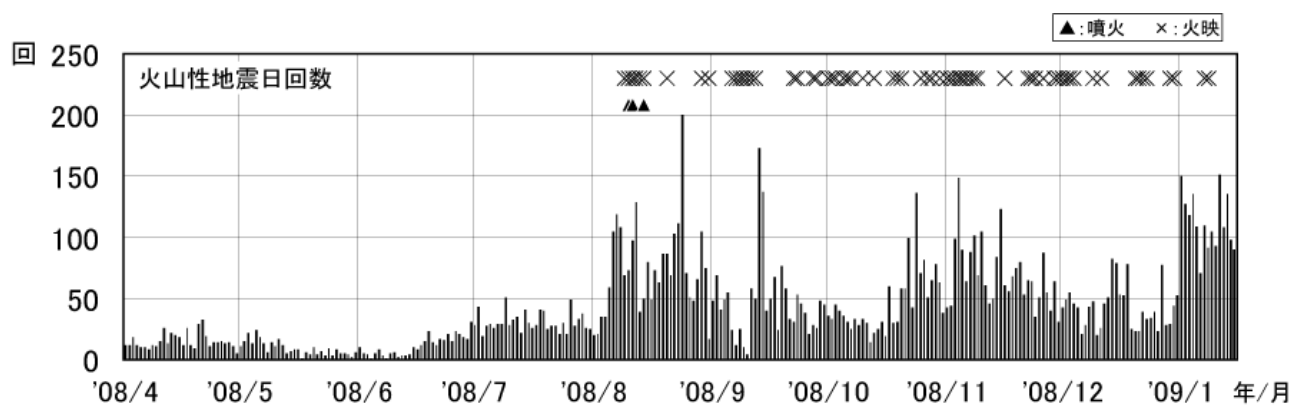


図2 浅間山 火山性地震の日別回数(2008年4月1日～2009年1月15日)

### みやけじま 三宅島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

噴煙高度は火口縁上概ね100mで推移した。火山性地震はやや多い状態が続いている。

15日に行った現地調査では、二酸化硫黄放出量は一日あたり1,200～1,900トン(前回2008年12月18日、700～2,200トン)と多い状態が続いている。

三宅島では、今後も山頂火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるので、山頂火口周辺(雄山環状線内側)では噴火に対する警戒が必要である。また、火山ガス予報で予想される地域では火山ガスに対する警戒が必要である。降雨時には泥流にも注意が必要である。

## いおうとう **硫黄島** 【火口周辺警報（火口周辺危険）】

独立行政法人防災科学技術研究所及び国土地理院の観測によると、地震活動は落ち着いた状態で経過しているが、2006年8月以降みられている島全体の隆起を示す地殻変動は、2008年11月末頃からこの傾向は鈍化している。

硫黄島では、火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、従来から小規模な噴火が発生した領域では噴火に対する警戒が必要である。

## ふくとくあかのば **福德岡ノ場** 【噴火警報（周辺海域警戒）及び火山現象に関する海上警報】

今期間、観測は行われなかった。なお、これまでの海上保安庁海洋情報部、第三管区海上保安本部及び海上自衛隊による上空からの観測で、福德岡ノ場付近の海面には長期にわたり火山活動によるとみられる変色水等が確認されている。

福德岡ノ場では引き続き小規模な海底噴火が発生すると予想されるので、周辺海域では噴火に対する警戒が必要である。

## さくらじま **桜島** 【火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）】

南岳山頂火口では15日に爆発的噴火<sup>3)</sup>が発生し、噴煙が火口縁上700mまで上がり、弾道を描いて飛散する大きな噴石<sup>1)</sup>が7合目まで達した。南岳山頂火口で爆発的噴火が発生したのは2008年8月23日以来である。また、昭和火口では、時々ごく小規模な噴火が発生し、15日の夜間には、高感度カメラ<sup>4)</sup>で確認できる程度の微弱な火映が観測された。

火山性地震及び火山性微動は少ない状態が続いている。

国土地理院のGPS観測によると、姶良カルデラ（鹿児島湾奥部）の地下深部へのマグマ注入によると考えられる長期的な膨張が続いている。また、桜島直下にマグマが新たに移動したことを示す地殻変動は観測されていない。

桜島では、引き続き南岳山頂火口及び昭和火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるので、火口から概ね1kmの範囲では大きな噴石に警戒が必要である。また、風下側では降灰及び小さな噴石<sup>1)</sup>（火山れき<sup>5)</sup>）にも注意が必要である。降雨時には泥流や土石流に注意が必要である。

3) 桜島では、噴火のうち、爆発音、噴石の火口外への飛散、一定基準以上の空振等を観測した場合に爆発的噴火としている。

4) 九州地方整備局大隅河川国道事務所の黒神河原上流設置カメラ等による。

5) 桜島では「火山れき」の用語が地元で定着していると考えられることから、付加表現している。

## さつまいおうじま **薩摩硫黄島** 【火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）】

硫黄岳山頂火口の噴煙活動はやや活発な状態が続いており、噴煙高度は火口縁上概ね200mで推移した。火山性地震はやや多い状態が続いている。

薩摩硫黄島では、硫黄岳火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるので、火口から概ね1kmの範囲では噴火に対する警戒が必要である。

## くちのえらぶじま **口永良部島** 【火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）】

火山性地震は少ない状態が続き、火山性微動は時々発生した。島内に設置した遠望カメラでは、噴気が時々観測され、高さは火口縁上20～100mで推移した。

GPSによる地殻変動観測では、2008年9月以降新岳火口浅部の膨張を示す変化が続いている。

口永良部島では、火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生する可能性があるため、火口から概ね2kmの範囲では大きな噴石<sup>1)</sup>に警戒が必要である。また、風下側では降灰及び小さな噴石<sup>1)</sup>にも注意が必要である。

## 諏訪之瀬島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

御岳火口では、9日に小規模な噴火が発生した。火山性地震及び火山性微動は消長を繰り返しながらやや多い状態が続いている。

諏訪之瀬島では、御岳火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、火口から概ね1kmの範囲では大きな噴石<sup>1)</sup>に警戒が必要である。

### 【噴火予報発表中の火山の活動状況及び予報事項】

## 阿蘇山[噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）]

中岳第一火口南側火口壁の噴気孔からの火炎現象<sup>6)</sup>は、天候不良のため確認されていない。

10日から14日にかけて振幅の小さな火山性地震が日回数50回を超え、13日は129回と一時的に増加した。なお、火山性微動の発生はなく、孤立型微動は少ない状態で経過し、その他の観測データにも特段の変化はなかった。

阿蘇山では、火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められない。ただし、火口内では噴気や火山ガスの噴出が見られることから、火口内等では火山灰噴出等に警戒が必要である。また、火口付近では火山ガスに対する注意が必要である。

6) 熱せられた噴出物が炎のように見える現象

上記以外の火山では、期間中、火山活動に特段の変化はなく、予報事項に変更はない。

### 【参考】 噴火警報及び噴火予報と噴火警戒レベル等の対応表

| 噴火警戒レベル導入火山    |        | 噴火警戒レベル未導入火山          |
|----------------|--------|-----------------------|
| 噴火警戒レベル（キーワード） | 警報・予報  | 警戒事項等（キーワード）          |
| レベル5（避難）       | 噴火警報   | 居住地域厳重警戒<br>または山麓厳重警戒 |
| レベル4（避難準備）     |        | 入山危険                  |
| レベル3（入山規制）     | 火口周辺警報 | 火口周辺危険                |
| レベル2（火口周辺規制）   |        | 平常                    |
| レベル1（平常）       | 噴火予報   |                       |

海底火山については、噴火警報（キーワード：周辺海域警戒）と噴火予報（キーワード：平常）で発表する。